

岡大教 第25号  
令和4年8月2日

関係大学長 殿  
関係学部長 殿  
関係機関の長 殿

岡山大学学術研究院教育学域長  
高瀬 淳

### 教員の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本学域では、下記の要領により教員を公募することとなりました。つきましては、ご多用中誠に恐縮に存じますが、貴学・機関関係者及び関係諸方面にご周知いただくとともに、適任者の推薦についてよろしくお願い申し上げます。

### 記

岡山大学大学院教育学研究科教育科学専攻では、教育に関する様々な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、そこに見いだされる課題を実証的・体系的に教授研究し、教育科学の発展に資するとともに、豊かな学職と高度な課題解決能力を備えた人材を養成することを目的としています。

本公募では、地域社会に密着した美術教育の推進と共に、創造性・STEAM教育の視座で表現領域の学習指導及び研究指導ができる教員を求めています。

学部教育では、地域の中で先導的な役割を果たす教員の養成に向け、行動力を発揮し、中心的役割を担う方を求めています。また、附属学校園等への実質的な支援や、地域の小学校、中学校等の教育現場の実践的指導に、積極的に関わることも期待しています。

1. 職名・人員： テニユア・トラック講師又は助教・1人
2. 所属： 学術研究院教育学域  
(大学院教育学研究科教育科学専攻・美術教育講座)
3. 教育研究分野： 美術科教育学

4. 任期： 着任時から5年

テニユア・トラック期間満了日の9月前までに行う審査の結果、別紙テニユア審査基準を満たしている場合は、テニユア・トラック期間満了日の翌日から任期の定めのない教員として採用します。ただし、優秀な教員に関しては、5年の期間を待たずにテニユア審査を行うことがあります。

5. 担当授業科目

教養：学問の方法、高年次教養演習、美術鑑賞に関する科目など

学 部：図画工作科指導法基礎，図画工作科指導法Ⅰ・Ⅱ，図画工作科指導法開発Ⅰ・Ⅱ，図画工作科内容構成論Ⅰ・Ⅱ，中等美術科指導法基礎・応用，中等美術科授業開発基礎・応用，中等美術科内容構成基礎，中等美術科内容開発，創造性・多様性チャレンジ，PBL（先端科学教育領域），教職実践演習など

修士課程：教育科学特論（美術科教育学），教育科学プロジェクト研究概論，PBL，教育科学課題研究など

※大学院博士課程の授業を担当する場合がある。

## 6. 応募資格

- (1) 博士の学位またはこれと同等の研究業績を有すること。
- (2) 研究業績として，美術教育に関する研究著書，論文，公募展等で公に発表した作品の合計数が6編（点）以上，そのうち査読を経た学術論文2編以上，公募展等での入選・入賞2点以上，もしくはそれに準ずる業績を有すること。
- (3) 図画工作科及び美術科教育の分野において国際的・現代的観点から幅広い教育上の対応ができ，小・中学校等の教育実践指導にも積極的に関与できること。
- (4) 教員免許状を有し，教職経験が5年以上あることが望ましい。
- (5) 外国語により講義を行うことができる能力を有することが望ましい。
- (6) 将来，博士課程の研究指導ができることが望ましい。
- (7) 採用後は，岡山市内又はその近郊に居住できること。

## 7. 採用予定日：令和5年4月1日

## 8. 提出書類

- (1) 履歴書
- (2) 教育研究業績書
  - ・研究著書，学術誌論文，その他に分類して記載のこと
  - ・共著の著書及び論文については，共著者の氏名，本人の分担などを概要欄に明記のこと
- (3) 主要な著書，論文の別刷り（コピー可）3編
- (4) これまでの教育・研究の概要，着任後の研究構想及び教育に対する抱負（合わせて2000字程度で，A4用紙2枚にまとめてください。）
- (5) 実務の経験に関する事項（実務の経験がある場合のみ）
  - ※（1）履歴書，（2）教育研究業績書，（5）実務の経験に関する事項については，岡山大学大学院教育学研究科ホームページからダウンロードできる所定の書式を使用してください。  
<https://edu.okayama-u.ac.jp/news/recruit/format/>

## 9. 応募締め切り：令和4年9月12日（月）必着

## 10. 応募書類送付先

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

岡山大学学術研究院教育学域長 高瀬淳 宛

（封筒に「教育科学専攻美術教育講座教員応募書類在中」と朱筆し，必ず書留にて送付のこと）

応募書類は返却いたしません。特に返却を希望される場合はその旨明記し，送料着払いのため，返信用封筒及び着払い伝票を同封してください。

## 1 1. 問い合わせ先

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

岡山大学学術研究院教育学域（美術教育講座） 教授 山本和史

（電話）：086-251-7661

（E-mail）：kazuyama@okayama-u.ac.jp

## 1 2. その他

（1）岡山大学大学院教育学研究科ホームページ：<https://edu.okayama-u.ac.jp/>

（2）岡山大学のテニユア・トラック制については、次のURLを参照ください。

[https://www.okayama-u.ac.jp/shokisoku/reiki\\_honbun/u352RG00000029.html](https://www.okayama-u.ac.jp/shokisoku/reiki_honbun/u352RG00000029.html)

（3）給与については、年俸制が適用されます。関係規定は、次のURLを参照ください。

「国立大学法人岡山大学職員就業規則」

[https://www.okayama-u.ac.jp/shokisoku/reiki\\_honbun/u352RG00000030.html](https://www.okayama-u.ac.jp/shokisoku/reiki_honbun/u352RG00000030.html)

「国立大学法人岡山大学年俸制適用職員給与規則」

[https://www.okayama-u.ac.jp/shokisoku/reiki\\_honbun/u352RG00000039.html](https://www.okayama-u.ac.jp/shokisoku/reiki_honbun/u352RG00000039.html)

（4）面接をお願いすることがあります。ただし、面接のための旅費は支給されませんので、ご了承ください。

（5）岡山大学では、男女共同参画を推進し、女性教員をサポートしています。女性の積極的な応募を歓迎します。

## 別紙

### 大学院教育学研究科教員のテニユア審査基準

#### 教育科学専攻

大学院教育学研究科教員のテニユア審査基準第2の(2)に基づき、教育科学専攻における助教及び講師のテニユア審査基準を、次のとおり定める。

#### 審査職位「助教」「講師」

社会に存在する課題に教育を通して関わることのできる高度な問題解決能力を有する人材を養成する岡山大学大学院教育学研究科教育科学専攻の理念・目的を踏まえ、また、本研究科が教員養成を目的とした学部へ接続された研究科であることを考慮し、研究活動、教育活動、社会活動、管理運営の4項目について以下の必要要件を定める。対象期間は、就任からテニユア審査書類提出時までとする。ただし、要件に達しない項目があっても、特筆すべき事項がある場合には審査において考慮される。

#### 1. 研究活動

教育科学専攻や教員養成・研修に資する研究活動を積極的に実施していること。その過程で以下の(1)から(3)を満たすこと。

##### (1) 外部資金の獲得

研究代表者として、継続課題がある場合を除き、科学研究費補助金の申請を毎年行っていること。

##### (2) 研究業績

当該テニユア・トラック人事に関係する領域に適した十分な論文等（研究著書、査読付き学術誌論文、学術翻訳書等）の研究業績があること。

##### (3) 学会活動

本人による学会等での発表が2回以上あること。

#### 2. 教育活動

本学部担当の教養教育科目や、学部・大学院カリキュラムの科目の講義、演習、実験等の担当を通して教員および教育に関わる人材の養成に務め、かつ、教育科学専攻や学部で学生の研究指導を補助し、学術論文・学位論文執筆の助言・指導を分担して行っていること。

#### 3. 社会活動

教育・研究活動に根ざした地域社会への働きかけとして、当該テニユア・トラック人事で期待さ

れている事項、および、公開講座の講師、高大連携事業・附属学校園出前授業、教育委員会・学校等主催の研修会講師、国際貢献活動、教員免許状更新講習講師等を積極的に行っていること。

#### 4. 管理・運営

本学部・研究科の管理・運営（入試関連業務を含む）に積極的に参画していること。また、所属専攻及び当該テニユア・トラック人事で期待される事項に関わる管理・運営を、他教員と協力して積極的に行っていること。

##### 附 則

この基準は、令和元年6月19日から施行する。

##### 附 則

この基準は、令和2年6月25日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

##### [各講座での附則]

以下の附則で記すA論文とは、次のものとする。

A論文：日本学術会議協力学術研究団体が発行し、且つその学問領域において全国的に評価の高いもの

##### [美術教育講座]

#### 1. (2) 研究業績

研究論文、及び主要な作品発表の合計数が4点以上あり、そのうち1点以上はA論文あるいはA論文相当の作品発表で、かつ論文の場合は筆頭著者であること。

※A論文相当の作品発表：全国的な規模の美術団体やコンクールにおける作品発表で評価を得たもの、または、全国的なレベルの場における作品発表で評価を得たもの。